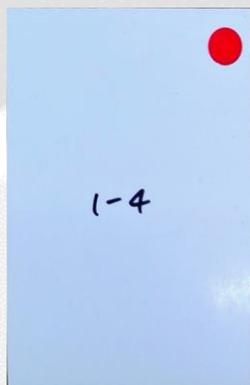


## ◆『完成記念式典』

6月1日(土)に、完成記念式典が行われました。

MOIS 開校から5年間の歴史を振り返り、学校全体と関係コミュニティが共に歩んだ成果を再確認し、本校の特色を内外に発信することを目指す、との目標が掲げられ、前日まで完成記念式典実行委員会が準備に励んでくれました。



第一部は「宝探し」です。教室や廊下などに隠された各学年の写真を見つけ、それを台紙に順番に貼り合わせていくと、なんと正門から撮影した本校の風景が、大きな写真モザイクとして完成しました。



体育館に移動して、事前アンケートの回答をもとに、様々なランキングをクイズ形式で発表した「ランキングでクイズ」で大いに盛り上がりました。続いて大宮国際完成を記念して作成した、MOIS がこれまで歩んできた道のり・思い出を振り返るムービーを鑑賞したのち、校長先生が4月の始業式で宿題とされた「MOIS の新時代に向けて～運命の5年からシンカの5年へ～」の意味するところを、5・6年生の生徒が立派に答えてくれていました。



第二部は、MOIS 創設、発展に尽力していただいた、清水勇人さいたま市長・江原大輔さいたま市議会議員・竹居秀子さいたま市教育委員会教育長をはじめとする、多くの来賓の方々をお招きしての完成記念式典が挙行されました。祝辞ではどのの方々も、MOIS のこれまでの歩みを驚きと喜びをもって祝福し、これからの未来に大きな期待を寄せていました。

第二部の校長式辞の中で、関田校長は「本校が認定を受けている国際バカロレアは、『学校コミュニティ』という呼び方で、こうした様々な関係者との連携、協働をととても重要視しています。本校がこれまでの5年間、コロナ禍においてさえも、新しい学習スタイルの歩みを止めずに今日を迎えられたのも、こうしたコミュニティの皆様の深いご理解と温かいご支援があったればこそ、できたことです。心から感謝申し上げます。」と述べています。

入学後の期待と不安、コロナ禍を乗り越え、変化の激しい時代を生き抜くに十分な力を持った6年生が、来たる卒業に向けて邁進しています。もちろん他の学年の生徒たちも、先輩方の背中を見て追いつき追い越せと日々成長しています。

MOIS の素晴らしい学びの環境は、決して学校の力だけではなく、保護者の皆様、地域の皆様、さいたま市民の皆様からの大きな期待と温かいご支援があってこそのもです。

運命の5年が終わり、これからの5年は MOIS の「真価」が問われてきます。生徒、教職員一丸となって学びを「深化」させ、人生100年時代を輝き続ける力を「伸化」できるよう、MOIS をより良い学び舎へと「進化」させていきます。

## ◆『3年生 New Zealand 語学研修』

3年生は、6月9日(日)～6月18日(火)の期間、NZで9つの学校に分かれ、語学研修を行いました。学校ごとにどのようなことを学ぶことができたのか、生徒に聞いてみました。

### Christchurch Girls High School

もともと自分は英語が得意でなく、ホームステイ先で一人なことや、バディと意思疎通をしてプロジェクトを進めなければいけないことがずっと不安でした。

それでもいざ行ってみれば、現地の人たちは英語がわからない私にも丁寧に説明してくれたり、簡単な英語を使ってくれたりと特に困ることはありませんでした。また、初めての海外でしたが、沢山の新しい経験や英語の自信も身に付けることが出来た語学研修となりました。

ホストファミリーの人たちもたくさん話しかけてくれたり、2人の子どもは私とたくさん遊んでくれたりと、ずっと会話が絶えない楽しい家庭でした。休日も海岸に行ったり、ショッピングに行ってお飯を食べたりお土産を買うことが出来ました。

学校でもバディと授業を受け、みんなと体育でアーチェリーやラグビーをしました。日本の学校とは雰囲気も違って、日本とNZの学校の違いも知ることが出来ました。



### Aidanfield Christian School

今回のNZ語学研修ではたくさんのことを体験することができました。嬉しいことも悲しいこともありました。そのたびに助けてくれたり喜んでくれたりする人がいました。楽しかっただけでは終わらないたくさんの学びをさせてもらいました。周りの人に恵まれて感謝しかありません。NZで現地の人とうまくコミュニケーションが取れなかった際も先生、Aidanfieldのみんな、3年生のみんなが声をかけてくれて、多くの文化の違いや環境の違いなど日本にないものを教えてもらえました。

自分が困っているときにほかの人が積極的にヘルプにきてくれたからこそ楽しめたNZ語学研修だと思うので、これから自分も人のヘルプサインに気付けるようにしていきたいと改めて思いました。みんなで行けたNZは一生覚えていたい記憶になりました！



## Mt. Hutt College

今回の NZ 研修は本当にいろいろなことがありました。ペアがおらず、一人でホストファミリー5人に立ち向かっていくのはとても勇気がいることで、行く前はとても心配でした。ホストファミリーが親戚の家に夕食を食べに連れて行って、9人对1人で質問をたくさん受けたときはどうなるかと思いました。また、3日に家の羊が急に出荷されて肉になって戻ってきたり、雨で車のフロントガラスが凍っていた時にクレジットカードを使って溶かし始めたり、日本では体験できないようなことがたくさんありました。学校は、最初の授業からロッククライミングをやったり、情報の授業なのにラグビーをし始めたりするなど、あっちの生徒は活発でした。ホストファミリーや町の人達の、あんなに寒い街にある温かい心に何度も救われました。一つ失敗したというなら、もっとコインを使って両替してもらえばよかったと思いました。



## Geraldine High School

今回の NZ 語学研修は私にとっては、初めての海外でどんな風になるかずっと不安でした。いざ行ってみると優しい人が多く英語が苦手な私でも十分楽しむことができましたと思います。GeraldineHS でのハンギクッキングは、とてもニュージーランドらしい体験でした。草を編んで作り上げる籠は、大変でしたがやりがいのある作業で楽しむことができました。ニュージーランドは建物が低くみんながゆったりとした生活を送っていて自分の日本での日常生活を振り返り、焦らなくてもよいのかなと感じることができました。最終日ホテルで寝坊してしまったことなど苦い思い出も少しありますが、それは次起こさないように対策するというように自分自身を振り返れたので良かったと思います。



## Rolleston College

今回初めて海外に行ったため、出発する前や準備の間きちんと現地にたどり着けるか不安でしたが、何事ともなくホストファミリーの家までたどり着くことができ良かったです。ホストファミリーも私たちを歓迎してくれていたのも、その期待に応えられるようお手伝いできることがあるか、家のルールはあるかなどホストファミリーに対してのマナーには特に気を付けました。また、学校では、バディが校内を案内してくれたり一緒に授業に参加させてくれたり、とても貴重な経験となったことが多く、その経験を忘れないようにしたいと思いました。他にも、MOIS生全員でキャッスルヒルに行ったことがとても良い思い出になりました。中でも、日本では見ないような山と道中で見つけた羊や馬はニュージーランドと日本の違いがとてもよく表れていて興味深かったです。最後に、ホストファミリーとお別れの時は感謝の気持ちを込めてペアと一緒に手紙を渡しました。とても感動してくれたのでうれしかったです。

今回が初めてのホームステイ経験で、どのようにホストファミリーとコミュニケーションをとれば良いか、どのようなことに気を遣えば良いかなど、社会的に生かせるような経験をたくさんさせてもらいました。この経験を忘れないようにしたいです。



## Kaiapoi High School

今回、NZ 語学研修で、学校のプログラムとして料理・植樹体験・自然保護施設の見学を行いました。特に料理については、英語で調理法や調理器具の名前を理解するのが難しかったです。しかし現地の先生・生徒さんが手順等を教えてくれたおかげで、おいしい料理を作ることができました。また、料理が出来上がるまでの時間に、日本のゲームを現地の生徒とやることができたのでうれしかったです。ホストファミリーの子供たちとかくれんぼをしたり、他愛もないことで笑い合ったりなどしました。最初はコミュニケーションをとれるか心配でしたが、NZ の人々が親身になって接してくれたため、充実した語学研修にすることができました。



## Oxford Area School

今回のホームステイは、本当にいい人たちに恵まれたとても充実した機会になりました。本当に優しく素晴らしい人たちで、家族の一人のように温かく私のことを受け入れてくださいました。様々な料理を一緒に食べたり、ドラマを見たりしました。また、日本の文化に関心があったようで、日本のバイクやアニメ、観光地の話で盛り上がりました。

Oxford Area School では、フィンレイというバディがフレンドリーに接してくれました。休み時間はほかの生徒も誘ってサッカーなどをして交流しました。フィンレイは日本のサッカー選手を多く知っており、別れの際に、サッカー選手のカードをくれたときは涙を禁じえませんでした。私は NZ 語学研修を通して、充実した異文化交流の機会にすることができました。



## Lincoln High School

今回の NZ 研修では、文化の違いについて知ることができました。私の行った Lincoln High School では、プロジェクトの一環として日本とニュージーランドの文化の違いを学びました。そこで、日本にはソーラン節という伝統的な踊りがありますが、ニュージーランドには、マオリの伝統的なダンスがあることを知りました。実際にマオリの伝統的なダンスを踊ってみた中で、ソーラン節とは歌詞や使うものなどの違いに気が付くことができました。歌詞の意味や振り付けにその国の文化やその国らしさが現れていることを体感することができ、非常に良い経験を積むことができました。この経験を生かして、これから他の国の文化も学んでみたいです。



## Darfield High School

私が行った Darfield High School は、「蜂の一生」についてのプログラムでした。その一つとして、蜂の巣箱を作ったり、ハニーリップやハニーキャンドルを作ったりしました。その他に蜂蜜の食べ比べもしましたが、味の違いがわかりとても興味深かったです。放課後や休日には、ホストファミリーの家にとにかくさんの動物たちと、餌をあげるなどして触れ合いました。日本ではなかなかできない経験だからか、子馬や羊たちの散歩をしたことが特に印象に残っています。さらに、ホッケーの試合を見たり、公園でサイクリングをしたり、ショッピングをしたり…と他にも様々な思い出があります。とても楽しく、良い経験になったと思います！



## ◆『Pittsburgh 海外フィールドワーク』

5年生は6月22日(土)~6月30日(日)の期間で Pittsburgh 海外フィールドワークに参加しました。MOIS では体験できないような、様々なワークショップがあり、充実したフィールドワークになりました。

### Duquesne University

I joined the Sister City program in Duquesne University. In the program we went to a lot of museums and learned about local history, culture, and artwork. The Andy Warhol Museum was especially interesting; it has so many amazing artworks, and I liked all of them.

Incidentally, I was in Flight 1 and we had flight trouble 3 times. We got stuck in airports both in Newark and Chicago. We got tired but these were our special experiences and memories.

I will go back again to Pittsburgh someday!



### Robert Morris University

RMU does not just have good people, the college also offers a huge campus with multiple facilities, good food, and a wide range of activities you can enjoy with both your friends and the local people. I joined the Lego Design & Robotics program during my stay at the college. The program taught me knowledge that you cannot acquire just by studying on your own. Throughout the course, we learned how to make designs and bring those designs into life. RMU offers everyone a unique experience and it is no doubt an unforgettable time!



### Concepts and the Statement of Inquiry

In the International Baccalaureate (IB) programs, conceptual learning focuses on understanding and applying broad ideas rather than memorizing facts. This approach emphasizes key concepts, enabling students to connect knowledge across different areas and contexts. Inquiry-based learning is central, encouraging students to explore and investigate, leading to a deeper understanding of the material. This method promotes interdisciplinary connections, showing how concepts like "change" are relevant across multiple subjects. It places students at the center of the learning process, fostering active participation and engagement, and aims to develop critical thinking, communication, and research skills, along with positive attitudes like curiosity and a love for learning. Learning is contextualized within global perspectives, relating studies to real-world issues.

In the Middle Years Program (MYP) of the IB, the Statement of Inquiry is crucial in unit planning. It connects key and related concepts with a global context and the content being studied, guiding the learning and teaching process to ensure meaningful inquiry. Key concepts are broad ideas significant across subjects, while related concepts are subject-specific but provide depth to the inquiry. The MYP identifies six global contexts to help students understand the relevance of their learning: identities and relationships, orientation in space and time, personal and cultural expression, scientific and technical innovation, globalization and sustainability, and fairness and development. The Statement of Inquiry frames the inquiry with a broad question or statement, guiding learning activities and assessments. This ensures that learning is connected, relevant, and encourages students to engage deeply with the material, fostering a comprehensive and interconnected understanding of the subjects they study.

IB プログラムでは、概念学習は事実を暗記するのではなく、広範なアイデアを理解し適用することに重点を置いています。このアプローチでは、主要な概念を強調し、学生が異なる分野や文脈で知識を結びつけることができるようにします。探究型学習が中心となり、学生が探究し調査することを奨励し、学習内容を深く理解させます。この方法は学際的なつながりを促進し、"変化"のような概念が複数の科目でどのように関連するかを示します。学生を学習プロセスの中心に置き、積極的な参加と関与を促進し、批判的思考、コミュニケーション能力、研究能力、好奇心や学びへの愛情などの肯定的な態度を育成します。学びはグローバルな視点で文脈化され、現実世界の問題に関連付けられます。

IB の MYP では、探究の意義を確保するために、重要概念、関連概念、グローバルな文脈、および学習内容を結びつける探究声明が重要な役割を果たします。重要概念は科目を超えて意味のある広範なアイデアであり、関連概念は科目固有の詳細なアイデアですが、探究に深みをもたらします。MYP では、学生が学習の意義を理解するのに助けるために、以下の 6 つのグローバルな文脈を定義しています: アイデンティティと関係性、空間的・時間的位置づけ、個人的表現と文化的表現、科学技術の革新、グローバル化と持続可能性、公正性と発展です。探究声明は広範な問いかけや声明を通じて探究を枠組みし、学習活動や評価を指導します。これにより、学びが結びつき、関連性があり、学生が学習内容に深く関与し、学んだ科目の包括的でつながりのある理解を促進します。

## ◆『各学年より』

### 1年生「真の貢献・奉仕とは？」

1年生担当：高見 藍

3G project では、SA (Service as Action=奉仕活動) について探究しました。身近な環境や人々に目を向け、自分たちが貢献できることは何かを考え行動に起こしました。「ミスコピーを減らすための啓蒙活動」「校内にある古墳周辺の清掃」「図書館の本のポップ作り」「MOIS ファームの手入れ」「鴨川みずべの里公園の清掃」、「海外の生徒への日本文化の紹介」等々、様々な SA を実施できました。困っている人々を助け、社会の課題を解決するために、「ありがた迷惑」になる活動ではなく、本当に力になれる活動とはどのようなものかを各々が真剣に考えて取り組みました。中には、3G での SA 活動から発展して、近隣のみわり特別支援学校に交流に行く生徒もいました。経験したからこそ得られる奉仕活動の大切さや社会への問題意識は、何にも代えがたい人生の宝となるはずです。

1年生の皆さんには、授業の枠を超えて、夏休みに様々なボランティアに参加してほしいと思っています。(随時 Classi でボランティア情報は配信されていますので、ぜひお子様にお声かけください。)



1年生の8名が、みわり特別支援学校との交流 SA「ひまさきプロジェクト」の活動報告をしてくれました。



広報 SA の1年生が、学校公開日に見学に来た小学生に向けて MOIS の授業や学校生活について説明を行いました。



「いのちの支え合いの授業」では、ストレスを上手に解消していく方法を学びました。



4月に受験した模試の振り返りを行いました。自分たちの学力の傾向を知り、復習に生かしました。

### 2年生「お互いを尊重し合える関係」

2年生担当：吉田 優作

上級生が海外へ語学研修やフィールドワークを行っている中で、2年生は通常通りの学校生活を送っていました。この一か月は、新しい環境に慣れてきて少し気が緩んでしまったせいも、名札の未着用や授業への移動中、給食中のマナーなど、生活の部分での課題がいくつか挙がりました。逆に、忘れ物や落とし物の減少や、互いに声を掛け合って授業に取り組む姿勢などは、4月当初に比べて良くなってきています。良いところは継続しつつ、課題を少しずつ改善できるよう学年全員で意識をしていきたいです。

特に、学年で意識的に取り組んでいきたいことは、「相手を尊重する」ということです。「SNS での会話や噂など1つの言葉が誰かに大きな影響を与えてしまうということ。それによって悲しい思いをする人がいること。それを無くそうと動いてくれる人がいること。」これらを2年生全員に話しました。学年目標である「明日もまた来たいと思える学年」を作り上げていくために、相手を尊重した行動を促していきます。ご家庭でもよい変化や成長に気づいた際には、ぜひ声をかけていただければ幸いです。

袈裟固め練習中です



集中した態度でスマホ安全教室に臨みました。



学生応援キャンペーンで MATCH をいただきました



### 3年生「NZ 語学研修を終えて」

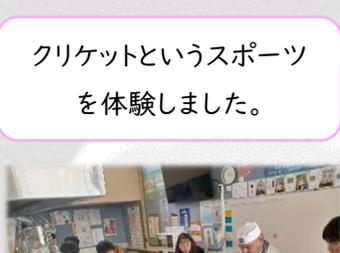
3年生担当:市川 さくら

6月は、3年生のメインイベントである NZ 語学研修がありました。初めての海外研修ということで、出発前は大きな期待と不安が見られましたが、現地では日頃の MOIS での学習成果を発揮し、目的意識をもって研修に取り組む姿が見られました。「言語のインプット、アウトプットにより、コミュニケーションの幅が広がりました。」「積極的にコミュニケーションをとったり、物事に挑戦したりすることで、自らの多様な学びへとつながりました。」「言語だけでなく、NZ の文化や伝統についても実感することができました。」など様々な感想があり、語学研修を通して自らの視野を広げ、考え方や価値観の違いを越えて互いに協力し合うことができたのではないのでしょうか。

保護者のみなさまには多大なご協力をいただきました。ありがとうございました。



バディと美術の授業を受けています。



クリケットというスポーツを体験しました。



バディとの別れを惜んでいます。



NZ の伝統的な料理について学んでいます。



### 4年生「自分にできることは何か」

4年生担当:原口 芽

4年生では LHR の時間に、4・5年合同で志望校調査や4月に行われた模試の振り返りが行われました。4年生全体で模試の結果がどのような傾向があるのか知り、自身の分析につなげ、今後の勉強にどう生かすか考えている様子が見受けられました。行事に関しましては、東北修学旅行のオリエンテーションや、5年生の時に行われる海外フィールドワークの説明がありました。学校の授業や様々な学校行事を通して、自分の進路と関連させて自分にできることは何か意識してくれることを願っています。生徒が積極的な行動に移していけるよう、教職員一同サポートしていきます。

また、6月から多くの留学生がこの4年生にやってきています。バディの生徒を中心に、留学生とふれあい、異文化理解につなげさらに生徒の視野が広がることに期待しています。

7月末にはポートフォリオ、また夏休みには、課外活動に参加したり、オープンキャンパスに行ったりするなど、ご家庭におかれましても、見守っていただけると幸いです。



LHRの様子



模試の振り返り



東北修学旅行  
オリエンテーション



## 5年生「世界に羽ばたくための大きな一歩」

5年生担当:福永 和輝

5年生は、MOIS 生にとって大きな行事の一つである海外フィールドワークのため、アメリカ・ペンシルバニア州ピッツバーグに約1週間滞在しました。滞在中はロバートモリス大学、デュークイン大学で開催されたサマーキャンプに、現地の高校生とともに参加しました。キャンプのレッスンではこれまでの英語の学習を存分に活かし、現地の大学教授や現地の高校生と積極的にコミュニケーションを取りながら、専門的な知識を様々な体験を通して吸収している姿が見られました。レッスン以外の時間もピッツバーグの街を歩いたり、アメリカのスポーツや芸術に触れたりするなど、アメリカの文化に触れ、自身の視野を広げていました。また、フィールドワークに参加しなかった生徒も自身で目標を立て、それぞれの場所で一生懸命活動をしていました。

保護者の皆様におかれましては、書類の準備等、様々な点でご協力いただきありがとうございました。年次団としては、今回の経験を「良い思い出」ととどまらせることなく、今後の学校生活、そしてその後の社会生活において、世界へ羽ばたくための原動力に変えてほしいと考えています。ご家庭でも本人たちの思い出話に耳を傾けていただくとともに、その中で成長や変化に対して積極的に声をかけていただければと思います。



サマーキャンプ参加の様子です。

## 6年生「総合型選抜出願準備」

6年生担当:大豆生田 寛人

先日のポートフォリオ検討会、ご多忙の中お越しいただきありがとうございました。その後、お子様の体調、勉強の様子はいかがでしょうか。それぞれの担当教員からもあったかと思いますが、この夏休み期間中の勉強の質をいかに高められるかが、この先の結果に直結します。ご家庭の協力なくして進路実現はあり得ませんので、お子様の背中をそっと(時には強く)押しただければと思います。

さて、9月に入ると総合型選抜の出願が始まります。出願書類の準備は目途がたってますでしょうか。一般的に出願の際には以下の書類が必要です。

- ・願書
- ・願書用の写真(多くの場合は出願からさかのぼって3か月以内に撮影されたもの。データでの提出の場合もある。)
- ・調査書(本校が発行します。厳封してお子様へ渡します。開封無効。)
- ・志望理由書
- ・活動報告書
- ・各資格取得証明書

大学によって提出書類は異なります。場合によっては留学先の成績証明を求められることもあります。今一度志望する大学の募集要項をお子様とともに読みいただき、出願期間とあわせてご確認ください。

また、調査書の発行には1週間程度かかります。調査書発行願をまだ提出されていない場合は、速やかにご提出いただくようお願いいたします。